

遺伝子検査を活用した
最適ながん治療の研究を進める

黒田 陽介さん(41)



を多く救う医師を志した。医学士時代は救命救急医の道と考えたが、より患者に寄り添う治療ができる外科医を選んだ。2016年に九大病院別府病院外科助教として赴任。消化器領域を専門に臨床の現場に立つ傍ら、がんの仕組みや新たな治療法についての研究にも取り組む。

「医師として目の前の患者一人一人と向き合う一方で、研究で多くの人を救える成果を出せれば」。医師と研究者の二足のわらじで、がんに立ち向かう。

医師になった24歳の時に「人生を医学にささげる」と決意した。「自分の目標と世間が求めていることが同じだと感じる。他にできることもないので天職です」と笑う。大分市の自宅から病院まで往復約30分を自転車で行く。休日は3人の子どもの時間を大切にしている。「家庭を切り盛りしてくれている妻には感謝しています」と話した。

(小田原大周)

ひと

別府市医師会と九州大学病院別府病院(別府市)が導入した「別府市スマートライフシティ計画」は、がん患者の遺伝子を調べて最適な治療法と退院後の生活を支援するプログラム。病院間の調整などの実務を担い、「遺伝子検査を活用した治療法や日常管理は医療の未来像。手探りながら着実に進めていきたい」と意気込む。

北九州市出身。9歳の時、近所で女兒が交通事故で亡くなり、命

臨床現場と二足のわらじ